

旭医大耳鼻咽喉科学教室は平成十年十一月に第二代の原渕保明教授が就任し、今年で十五周年を迎えた。

教室の研究テーマは、①扁桃病疾患の病態解明、シラカバ花粉症や小児中耳炎へのワクチン開発②頭頸部がんにおける分子腫瘍学的・腫瘍免疫学的解析③鼻性NK/T細胞リンパ腫における分子腫瘍学的・EBウイルス

## 扁桃病疾患研究で国際的業績

科学的解析④上気道咽喉の神経生理学的研究①の大きく四つ。

原渕教授のライフワークのひとつである扁桃病疾患の病態解明は国際的に業績が認められ、二十二年に国際

臨床応用を目指している。

## 放射線併用超選択的動注化学療法も導入

原渕教授が平成十三年に、NK/T細胞



現在が充実期という高水準医療技術を持ったスタッフがそろつ

音障害の患者には喉頭(杵組み)形成術を積極的に施行している道内では数少ない施設だ。二十一年導入の内視鏡補助下甲狀腺手術は関東以北唯一の実施設で、症例数も全国二位。昨年からは頸下腺摘出術にも応用している。全国でも数施設しか行われていなかった唾液腺内視鏡手術も十三年に導入した。従来、頸部外切開アプローチで顎下腺摘出術を行っていた唾石症も頸部に傷をつけることなく摘出し、全道から患者が紹介されている。

# 教室探訪

## 旭医大耳鼻咽喉科



平成十年の就任から十五周年の節目を迎えた。この間、二十五人が耳鼻咽喉科専門医、二十二人が医学博士の学位を取得している。

大学医学部の臨床教室の使命は教育、研究、診療そして社会貢献と考えている。教育理念は「臨床および研究に熱い情熱と闘志を兼ね備えた人間味あふれる臨床医師の育成」。教室員には会うごとに、常に高い志と前向きな情熱を持って取り組み、患者のみならず

## 原渕保明教授インタビュー

周囲の医療スタッフにも気配りできる医師であることを勧めてきている。

「臨床と研究は互いにフィードバックするものでなければならぬ」というモットーの下、教室員は日夜精力的に活動。当教室には病棟診療業務が一定期間免除され、研究に専念する医員、大学院生で構成される「Bad Free Team」システムが導入され、基礎研究の充実が図られている。診療に関しては、耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般において「最低でも全国レベル」の医療技術の維持・向上と、先端医療技術の導入を理念としている。

教室はトップダウンとボ

## 情熱、闘志、人間味あふれる臨床医師育成

トムアップによるオープンな雰囲気の中、一人一人が常に将来の教室づくりを考えている。タブレット型端末を医局員全員に持たせ、関連病院に離れていても抄読会等を通じてライブで情報共有できる取り組みも行っている。

国際感覚を持ち人間の間にバイジョンアップすることも重要で、これまでに十三人が海外へ留学。助教以上のスタッフ全員が留学経験者で最先端の医療技術を持つっており、今が教室の旬、充実期。今後、道内のみならず全国、世界の耳鼻咽喉科医療の中心的役割を担うべく、優秀なスタッフを送り出していききたい。